

学長インタビュー ▶ 13 ◀

# フェニックスフェスタ開催にあたって

—統一された大学、懐かしい大学、「思う心」を醸成する大学へ—

十月二日、越智広報委員長と若元広報委員が学長インタビューを行った。今回のテーマは「フェニックスフェスタ」。

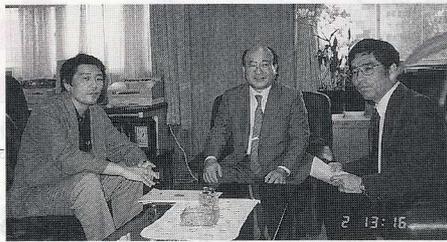
**広報委員**「まもなくフェニックスフェスタが始まりますが、学長としての感慨などありましたら、お伺いしたいのですが。学長」いろいろな思いがある。

これを機会に、全学の構成員が一つの事業に「参画する」という意識がますます高まることを願っている。たとえば、構成員の一人ひとりがフェニックスフェスタに対して「あの人たちなんかしてるよ」という冷たい関わりでなく、「自分はなにをしよう」とまじり「草花一つ植えて学内を美しくしよう」というような熱い関わりをお願いしたいと考えている。さらに頭脳集団としての広島大学構成員がフェスタの展開について独創的な提案をしてくださるのを期待している。

前から語ってきたことだが、学部レベルではなく大学のレベルで、「統一された大学」の意識が必要だ。今回のフェスタもそのためのきっかけにしてほしい。単に移転の完了

事業というにとどまらず、将来の大学につながるイベントになってほしい。いま本学に必要なのはこの点だと思われ、またそのための意識変革が今後の広島大学にとって鍵になると思っている。

だから、この事業で終わりというのではなく、むしろ出発点にしてほしいというのが、私の本音だ。出発点の第一として、五年後の



全学の構成員が一つの事業に「参画する」という意識がますます高まることを願っている。

植栽された木が直径二十センチの幹に生長しており、これを見て環境整備の大切さを痛感した。

第三には、広島大学を「思う心」を醸成するための出発点と捉えている。最近提案されている構成員全員による学内清掃活動などの試みも、これにつながるものとして歓迎したい。

**フェスタの準備にまつわるエピソードなどお聞かせください。**

皆さんもご存じのように、今回シュミット氏がわざわざ広島まで来てくださるが、これはありがたいことだと感じている。

ものになっていくだろう。できれば、五十周年の事業は今回よりもっと大規模なものにしてほしいと考えている。

第二には、「懐かしい大学づくり」への出発点にしたい。学長内定の時に、私は将来の広島大学のイメージをつかむために、実は、筑波大学へ行ってみた。そこには二十年前に

彼は知る人ぞ知るピアニストだし、彼の平和に関する政治理念はとても重要だ。たまたまある先生からシュミット氏の名前を聞いて、これだと思いい、彼に来てほしいと手紙を書いた。よい返事をいただいていた。ほんとうに嬉しい。瓢箪から駒とはこのことだ。

もう一つの嬉しいことは、東広島市から東広島運動公園

に各学部の木を植えてあげましょうという申し出があり、さらに東広島市のいくつかの団体からは百本の桜の木を寄贈しようという声も頂いていることだ。将来の一千本の桜の木の構想への第一歩と考えている。さらに木に関して言えば、東千田のキャンパスには諸外国から寄贈された樹木がたくさんあるが、その二世を東広島市のキャンパスに植樹すべく各国に提供を依頼したいと思っている。

大学づくりの一環として、環境は大切な要件になると考えている。そういう面から言うと、東広島市のキャンパスに唐突に立っている巨大な煙突はなんとかならないかと考えている。たとえば、煙突にペインティングして楽しくするとか、あるいは目立たないようにはできないものか。この際、フェニックスフェスタの一環としてデザインを公募してみたいと思うがどうだろう。環境と調和したものをつくれれば、広島大学のシンボルにもなるのではないかと。

(目次は十八頁に掲載しています。)

国際シンポジウム 記念講演 地域と協力したイベント 留学生スピーチコンテスト パネルディスカッション 学部 企画 東広島市イベント 大学祭実行委員会